

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	コロニー児童デイサービスきゃん		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「遊びを中心とした取り組み」 活動は遊びが中心、子供たちが楽しんで来所しやすい環境である。 週末や夏休みは遊びのボリュームが多く、イベントがいっぱい 保護者参加イベントも二か月に一回ペースで行っています	・自由で能動的な「遊びの環境作り」を行っている。 ・「勉強や訓練に遊びの要素を取り入れる」のではなく「遊びの中に療育的視点」を持ち、支援の実施を行っている。 ・週末や夏休みの活動は、児童からのリクエストや、新しい遊びのチャレンジ、過去に子供たちから好評だった遊びや活動をバランスや季節などを意識して行っている。	・学校や家庭などでの生活の課題、困り感の把握・分析し、遊びの環境においてどのように取り組んで行けるか？ 既存の療育方法と合わせ、児童にマッチした新しい療育の形を創造し、PDCAサイクルにて質の向上を目指していく
2	「自己選択・自己決定できる環境」 事業所ではたくさん小さな選択があります。 「今日は何して遊ぼうかな?」「誰と遊ぼうかな?」「おやつは何食べようかな?」「宿題はどうしようかな?」 意思形成と表出を促し、コミュニケーション能力向上を目指しています。	・適宜職員間での情報共有、ミーティングを行い、過剰対応の予防、適切な支援実施を目指しています。 おやつは買い物形式、貯金やリクエスト制度など楽しい選択がいっぱいになるよう目指しています。 またノンプログラミング(自由時間)を行い、能動的な時間の中での自己覚知、自己選択・決定を促しています。	より多くの場面で、楽しく自己選択・決定の場面をつくっていき「楽しく自己主張」できる環境を目指していきたい。
3	「アプリ等を使った連携ツール」 日々の様子や内容は、お便りの文章とともに、写真を添付して送っております。なかなか伝えにくい活動の様子や生活の様子、支援内容についても、写真付きで共有することで、受け取る保護者の方もイメージがしやすく、好評いただいております。	・アプリ等を導入し、療育しながら同時進行でお便りを作成するのではなく、療育終了後(送迎後)にお便りを作成できるよう変更。 活動の場面を逃さないよう、職員間で写真撮影担当を決めている。	学校の先生など、その他の関係機関とも連携を強化し、それぞれが連携した支援体制の構築を目指します。 個人情報の取扱いに十分に注意しながら、保護者と先生、保護者とデイサービスといった独立した連携ではなく、全体で情報共有しながら、毎日のスムーズな支援体制を目指しています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラムを明確に行っていない。	ペアレントトレーニングに関しては、うるま市のお知らせを保護者に配布している。児童保護者にとって有益なものではあるが、実施には集団形成や時間の制約など保護者、事業所にはハードルが高い。その他でカバーできればと考え、ピアトレーニング(『仲間』『同等』という意味。同じ目的を持った仲間が集い、共に学ぶ場)を目指し、2か月に一回保護者参加イベントの開催を目指している	・今後も頻度を継続しながら保護者参加イベントの開催を目指す ・保護者ニーズの把握を目指し、対話していく
2	地域の児童館、学童との交流が少ない	現在、普通小学校に通う児童が利用しており、学校で学級に所属したり、協力学級に参加している児童が全員である。 公園など地域の児童が遊びに参加してくれることも多く、インクルージョンの視点からも、課題として子供たち一人ひとりの重要度を低くとらえている	・必要な児童がいらないか?常に意識し児童を観察していく。 ・関り方の形を常に模索し、児童館や学童さんに提案し実施していく
3			